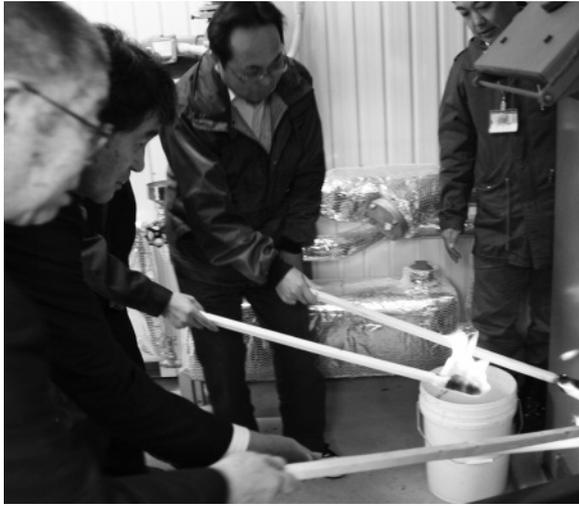


湯の沢温泉に  
木質バイオマスボイラー導入

12 | 20

Topics

12月



湯の沢温泉で木質バイオマスボイラーの火入れ式が行われ、上川総合振興局や北海道森林管理局上川南部森林管理署などの関係者およそ40人が出席しました。  
バイオマスボイラーの稼働で、占冠村の地域資源の有効活用がはかられ、また、化石燃料から木質バイオマス燃料へのエネルギーの転換を行うことで、二酸化炭素排出量の削減も可能となります。

村の  
出  
来  
事  
こと

サンタさんありがとう！！

12 | 20、26



12月20日に占冠へき地保育所、トマムへき地保育所には26日に、大きな白い袋を持ってサンタクローズがやってきました。  
子どもたちは一人ひとりプレゼントを受け取り「サンタさんありがとう」と元氣にお礼を言っていました。  
サンタクローズと記念撮影をした後は、お母さん手作りの美味しい食事を楽しみました。

村内の出来事、話題  
をお届けします

『富良野地区定住自立圏形成協定』を締結しました



12月25日、富良野市役所において富良野地区定住自立圏形成協定合同調印式が行われ、富良野沿線4町村が中心市宣言を行なった富良野市とそれぞれ協定を締結しました。  
「定住自立圏構想」は、5市町村が人口定住に向けた新たな取り組み(国の施策)です。  
協定書には、定住自立圏を形成するため、「生活機能の強化」「結びつきやネットワークの強化」「圏域マネジメント能力の強化」の3政策分野20項目を掲げ、項目ごとに中心市富良野と町村個々が連携して取り組む役割等が明記されています。

## 地域おこし協力 隊の取り組み

(林業振興室)

地域おこし協力隊

浦田 剛  
中島 辰男

### ほほケモノ係

私たち、地域おこし協力隊（浦田と中島）は平成25年7月に産業建設課林業振興室に着任し、占冠村の野生鳥獣管理に取り組んでいます。二人とも初めての占冠暮らしですが、村民の皆様のおかげで無事に半年を過ごすことができました。お礼かたがた、私たちの活動について簡単に紹介いたします。

現在までの主な仕事は、ヒ



学生に指導をする中島さん（一番左）



グマやエゾシカの調査や駆除に関する各種業務と、特定外来生物であるアライグマの駆除などです。また、林業振興室の一員として、ほかの林務用務を担うこともあります。前任の荒木さんが一人で行っていた仕事も、二人で悪戦苦闘しながら覚えていくところです。

仕事の中で比重が大きいのは、やはりエゾシカ関連です。ご承知のとおり近年、全道でエゾシカの生息頭数が急速に増えており、これに伴って農林業被害も増えました。占冠村では牧草や野菜などに被害があり、一昨年、エゾシカ対策基本構想を定めて、各種対策を進めています。私たちも、この基本構想を念頭に、様々なエゾシカ対策に取り組んでいます。

### エゾシカを調べる

取り組みの一つとして、エゾシカの生息数の増減を調べ

るセンサス調査をしています。このセンサス調査というのは、村内のあらかじめ決められたルートを日没前と日没後に車で走行して、目撃したエゾシカを数えるものです。農業被害や捕獲効率に関連づけられるデータを広範囲で得られる利点があります。結果から、以前と比べエゾシカが夜に限って畑へ出ている様子がわかり、捕獲が難しくなった現状が裏付けられました。

しかし、道路沿いのセンサスだけでは、村の大部分を占める森の中のエゾシカの様子はわかりませんし、目撃数の変化の理由も見当が付きません。そこで、少数のエゾシカに、GPS装置を付けて放ち、以後の行動を調査しています（ニレメトリ調査）。これまでの調査で、双珠別から上トマムへの季節移動や、夏も農地



学生に指導をする浦田さん（一番左）

に出ない「森林依存型」のエゾシカの存在がわかってきました。こうした調査は、いつどこでの捕獲が効果的かを検討する材料となり、「捕獲」を通して「被害対策」や「有効利用」につながる重要なプロセスです。

### エゾシカの捕獲と利用

エゾシカが多い時も少ない時も、適切な目標頭数を見定めて、上手に捕獲し続けていくことは、基本構想の要です。いま、エゾシカは村内にいるのに、警戒心が強くなり、捕獲が難しくなっています。捕獲できなくては、被害対策も有効利用も絵に描いた餅です。どうしたらよいのでしょうか。

まず、捕獲手法を工夫することが考えられます。占冠村ではこれまでも、種々の技術開発の舞台となってきました。今冬は、1月下旬から「モバイルカリング」試験がスタートしています。これは林道の除雪区間の通行を封鎖して、エサでおびき出したエゾシカを、車で移動しながら銃で捕る手法の試験です。

もう一つ、冬の狩猟も含めて、捕獲の力のかげ方を上手に調節して、捕獲効率を維持してゆくことも考えられます。場所や時期を区切って禁猟にしたり入猟制限したり、

逆に重点的に一斉捕獲をしたりと、エゾシカの動向に合わせて管理してゆくことが求められます。難しい技術ですが、被害を抑制し、狩猟事故を防ぎながら、エゾシカを未永く利用してゆくためには、こうした包括的な管理が必要であると考えています。制度上の枠組みを作るため、私たちは平成26年度の「占冠村猟区」設定を目指しています。

### さいごに

以上のように、私たちは様々な角度から、エゾシカを始め占冠村の野生鳥獣にアプローチしています。まだまだ土地に不慣れな私たちのこと、ひたすら歩いて見て聞いて、学んでゆきたいと思っています。農家、林業関係者、猟友会の皆様はじめ、村民の皆様のご協力をお願いしながら、野生鳥獣対策に取り組んでまいります。今後ともなにとぞ、よろしく願っています。

